

1. 表紙には、論題、執筆者名、所属および肩書き、論文要旨（日本語（横 30 字×縦 25 行以内）を記載する。

2. 原稿の様式

応募原稿は、MS Word による横書きで、A4 版、横 40 字×縦 37 行とし、余白は上 25 mm、下 20mm、左・右 20mmをとる。原稿は、原則として刷り上がり 15 頁前後とする、ただし、編集委員会が妥当と認めた場合には、制限頁数を超えることができる。

日本語は MS 明朝、英語は Times New Roman とする。見出し、図、表の題目は MS ゴシック（太字）とする。漢字、ひらがな、カタカナ以外の文字（例えば、数字、アルファベット）は半角とする、文字化けを避けるために、特殊なフォント文字は使用しないこと。フォントサイズ等は次の通りとする。

| | | |
|-------|---------|--------|
| 論題 | 14 ポイント | センタリング |
| 執筆者名 | 11 ポイント | 右寄せ |
| 所属 | 11 ポイント | 右寄せ |
| 論文要旨 | 10 ポイント | 左寄せ |
| 本文 | 11 ポイント | 左寄せ |
| 見出し | 12 ポイント | 左寄せ |
| 注（文末） | 10 ポイント | 左寄せ |
| 参考文献 | 10 ポイント | 左寄せ |

3. スタイル

本文の節、項等については、以下のようにする。

（1 行空き）

1 見出し

（1 行空き）

本文

1. 見出し

本文

注

参考文献

4. 表記

現代仮名使い、当用漢字、新字体を使用する。接続詞（および、ならびに、また、ただし等）についてはひらがなを、数字についてはアラビア数字を使用する。また、外国人名については原語により表記する。なお、本文の句読点は、句点（。）と読点（、）とする。

5. 図表

図と表は必要最小限にとどめ、それぞれ通し番号（図 1、図 2、表 1、表 2・・・）を付すとともに、簡単な見出しを付ける。

6. 引用および注

文献の引用についての注は、本文の文末に下記のように記載する。

- ① 外国人については、(例) : (Paton and Littleton [1940]、pp.15-20) 年号については西暦を、表記については半角文字を使用する。ドイツ語の頁の表記は S を使用する。
- ② 日本人については、(例) : (地域太郎[2016]、15-20 頁) 年号については西暦を、表記については半角文字を使用する。和文の頁の表記は頁を使用する。
- ③ 説明のための注については、本文の末尾に一括して記載する。なお、かかる注については本文の該当箇所に (1)、(2) のようにルビ上ツキで示す。

7. 参考文献

研究に引用した文献（論文、著書、URL 等）のリストを本文の最後に、和文献と洋文献を区別せず、著書のアルファベット順に下記のように記載する。

- ① 和書：著者名[出版年]『書名』出版社名。
- ② 論文（和文）：著者名[出版年]「論文名」『雑誌名』第○巻第○号、○-○頁。
- ③ 洋書：family name, personal name [出版年], 書名、出版地（または出版社名）。
- ④ 論文（洋文）：family name, personal name [出版年]、”論文名”、雑誌名, Vol,○, No. ○、pp.○-○。なお、personal name については W.A.のように省略する。また、論文の頁数については当該論文のフルページを記載し、出版年については西暦で記載する。
- ⑤ 論文（和文）が著書の 1 章に該当している場合：
著者名 [出版年] 「論文名」編著者名編 [出版年], 『書名』出版社名、○-○頁
- ⑥ 論文（洋文）が著書の 1 章に該当している場合：
family name, personal name [出版年]、 “論文名” in family name, personal name (ed.) [出版年], 書名、出版地（または出版社名）、pp. ○-○
- ⑦ 訳書については、原著書を使用しない場合は和書に準じた扱いにする。

8. その他

学会誌には、研究論文、研究資料、研究ノート、事例研究、地域経営学会報告等を掲載する。また、書式の統一のため、文章や仮名遣い等について、編集委員会が修正する場合がある。

9. 英文要旨

査読論文の場合には、論題、執筆者名、所属および肩書き、論文要旨（1頁以内）の英文を必要とする。